

17 JR 海浜幕張地区

■地区の概要

位置づけ (立地適正化計画)	都心	
面積 (促進地区)	381.0ha	
旅客施設 (3000 人/日 以上) 乗降客数	JR 海浜幕張駅	136,756 人 (平成 30 年度)
バス便数	海浜幕張駅	712 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	海浜幕張駅南口	126 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
生活関連施設数	29 施設	
生活関連経路延長	約 9,320m	
500m 圏人口	1,565 人	※JR 海浜幕張駅を中心に 500m 圏の範囲で 算出 (2015 年国勢調査 4 次 (500m) メッシュ)
500m 圏高齢者数	128 人	
500m 圏高齢化率	8%	
従前の基本構想から の主な変更点	・ JR/京成幕張地区と重複しないように地区境界を精査 ・ 千葉県運転免許センターを含むよう地区拡大 ・ イオンモール幕張新都心及び新駅を含むよう地区拡大	

※JRの乗降客数は乗車人員公表値を2倍した値 バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

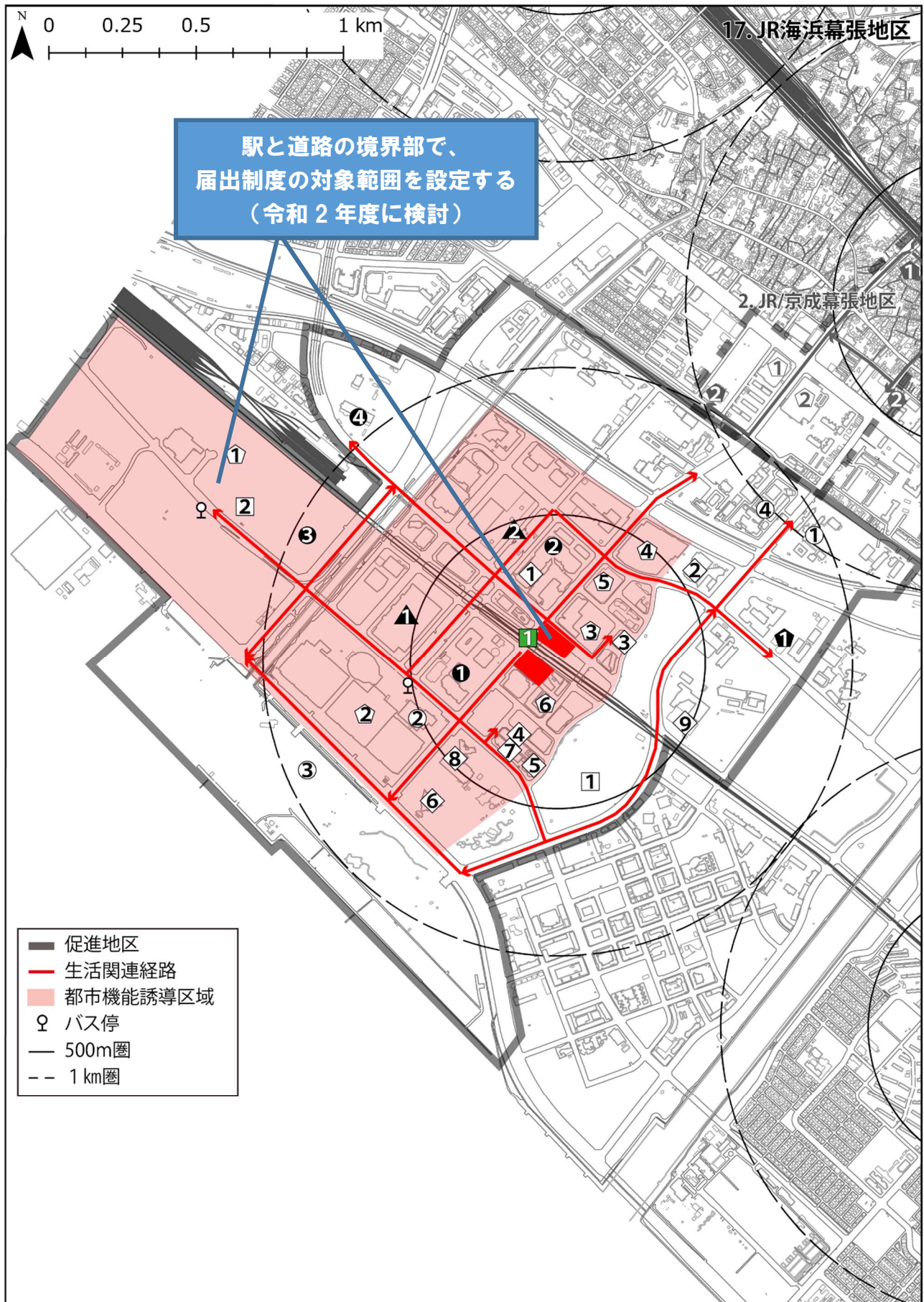
JR 海浜幕張地区は駅周辺の人口が促進地区のうちで最も少なく、高齢化率も最も低い地区です。駅から500m程度の範囲内に、大規模店舗や宿泊施設が立地しています。

駅周辺の主な土地利用は商業であり、南側に広く都市機能誘導区域が設定されています。JR 海浜幕張駅の乗降客数は千葉都心に次いで多く、バスは幕張新都心の地域内や幕張本郷駅方面で充実しています。また、地区の西側では新駅の設置が進められており、併せてその周辺地区の住宅開発が予定されています。

駅周辺は歩行者デッキで結ばれ、比較的バリアフリー化が進行しています。また、幕張メッセが東京2020大会の会場となることを受け、駅から会場周辺までの再整備が実施されています。一方、北口駅前広場は多くのバス便数に対して、停留所への安全なアクセスや情報提供が十分でない部分が指摘されています。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。
- バス停留所の利用環境、及びバス停留所と生活関連施設間の移動の連続性の向上を図ります。

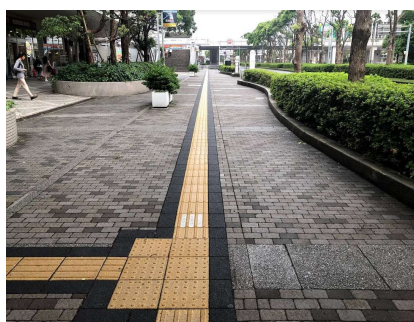


種別	番号	施設名称
旅客施設	1	JR 海浜幕張駅
公共施設	①	ワールドビジネスガーデン内郵便局
	②	幕張テクノガーデン内郵便局 ※1
	③	イオンモール幕張新都心内郵便局 ※2
	④	千葉運転免許センター
集会施設	①	幕張勤労市民プラザ
文化・教養・教育施設	①	県立保健医療大学
	②	日本コンベンションセンター、幕張メッセ
	③	QVC マリンフィールド
	④	放送大学
大規模店舗	①	イオンモール幕張新都心 ※2
	②	幕張メッセ国際展示場
	③	スーク海浜幕張
	④	イオン幕張店
	⑤	ROOM DECO かねたや幕張新都心店
	⑥	三井アウトレットパーク幕張
宿泊施設	①	セミナーハウス クロス・ウェーブ幕張 ※1
	②	幕張国際研修センター
	③	ホテルスプリングス幕張
	④	ホテルグリーンタワー幕張
	⑤	ホテル ザ・マンハッタン
	⑥	アパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉
	⑦	ホテル フランクス
	⑧	ホテルニューオータニ幕張
	⑨	JA共済幕張研修センター
都市公園	①	幕張海浜公園
	②	豊砂公園
駐車場	▲	千葉県幕張新都心第一地下駐車場
	▲	千葉県幕張新都心第二地下駐車場

※は同一建物内



JR 海浜幕張駅駅前広場



国際大通りの歩道



イオンモール幕張新都心